

本年度テーマ

主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について

事業内容

高知西：スーパーグローバルハイスクール事業について

【概要・目的】

本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、学習の振り返りを中心に協議。

平成28年度の当初計画（P）

●目指すグローバル・リーダー像

郷土や我が国、国際社会の発展に貢献する志をもち、高知から世界へチャレンジできる人材、あるいは、国際社会で活躍できる人材。

【本年度の取組内容】

- 1 グローバル探究の充実
- 2 英語学習の充実
- 3 授業のSGH化（教科・科目での探究型学習）
- 4 評価の充実
- 5 中四国のSGH校との連携
- 6 探究学習の成果を発表する場の設定
 - ①「ハイスクール世界サミット in 福島」（福島県、8月6日）
 - ②「世界津波の日『高校生サミット』」（黒潮町、11月25・26日）
 - ③「国際問題を考える日」（大阪大学、2月初旬）
 - ④その他コンテストへの応募
- 7 組織体制の充実

【第1回グローバル教育推進委員会でのご意見】

- ・生徒に求める活動や目標を明確に示すようにしてはどうか。（グローバル・リーダーの資質と能力に「郷土や我が国、国際社会の発展に貢献する志を持ち…」とは生徒にはわかりにくい。自分が好きなこと、得意なことを通じてよりよい社会を共生できる社会にすることが目的という観点で説明すれば、生徒も腑に落ちるのではないか。）
- ・実施2年目となることで、1年生と2年生の2つの学年間で情報共有をしながら取り組みを進めてほしい。
- ・主体的にさせるのではなく、生徒が自分のやりたいことを見つけて、夢中になるような取り組みにしてほしい。
- ・「自己管理能力」の項目をループリックの中に入れてはどうか。

【平成28年度 到達目標】

学習の振り返りをし、学習者の習得状況を教員及び学習者にフィードバックする。



自分で「課題を発見する力」、「課題を解決する力」、「考える力」を身に付けている。

平成28年度の取組状況（D）

1 グローバル探究の充実

グローバル探究Ⅰ

一学期は、「聞く」「見る」「感じる」ことを通して、地域の強みと弱みについて確認した。県外及び海外リサーチを通して高知を巨視的に考察できた。
[改善のポイント]

- ①探究スキルを育成するために、インタビューの仕方、まとめ方（KJ法）、発表方法についての演習を実施。
- ②グローバル思考を醸成するための講義・演習を実施。
- 県内リサーチ（8月24日、7地域、1年生全員）
J A馬路村、旭食品、J A土佐れいほく、太陽、四国銀行、ひまわり乳業、渋谷食品、日高わのわ会、高知アイス、どく礼もん企業組合、ニッポン高度紙工業、四万十ドラマ、椿原町、集落活動センター「はつせ」
- 大阪リサーチ（8月1・2日、20名）
高知県大阪事務所、大阪大学法学部、サントリー・グローバルイノベーションセンター、大阪・神戸米国総領事館
- 海外リサーチ
オーストラリア（7月23日～8月10日、9名）、香港（9月18日～22日、6名）シンガポール（9月20日～24日、11名）、台湾（9月28日～10月2日、4名）

グローバル探究Ⅱ

自らの興味・関心に基づいてテーマ設定し、微視的かつ巨視的に問題を考察するとともに、帰納的もしくは演繹的アプローチにより問題解決に取り組んでいる。

- [充実のポイント]
- ①課題解決の意義と一般的な探究方法を学習したうえで探究活動を実施。
 - ②3～5名のクラス横断的なグループを編成。
 - ③構想発表会、夏季アクションプラン、中間発表会（大学教員による指導・助言）の設定。
 - 東北リサーチ（7月12日～15日、5名）
陸前高田市高台視察、広田半島営農組合、気仙沼市役所、紫市場、屋台村訪問
 - 海外リサーチ
オーストラリア（7月23日～8月10日、2名）、香港（9月18日～22日、4名）台湾（9月28日～10月2日、6名）

2 英語学習の充実

英語表現Ⅱ（普）、Global EducationⅠ（英）

多読・多聴・多書・多話活動を重点的に行い、英語でのインプット・アウトプットの総量を増やしている。また、探究テーマである Food and Religion/Belief, Food and Language/Culture, Fair Trade については、概論を理解した上でリサーチを行い、調査結果をポスター化しプレゼンテーションを実施した。

3 授業のSGH化（教科・科目での探究型学習）

- ①日本史B：「蝦夷支配の歴史的な政策とその影響」
- ②英語表現Ⅱ：「Let's introduce a city/town in Kochi!」

4 評価の充実

- ①グローバル探究用ループリックの作成
- ②グローバル・リーダーの資質・力量についてのループリックの改善

5 中四国のSGH校との連携

第1回四国SGH高校生会議への参加（10月15・16日、8名）

6 探究学習の成果を発表する場の設定

- ①ハイスクール世界サミット in 福島への参加（8月6日、2名）
- ②高知県高等学校国際教育生徒発表大会への参加（2チーム、2名）
- ③高知県地方創生アイデアコンテストへの応募（6チーム）

7 組織体制の充実

- ①SGH推進の校務分掌組織としてグローバル教育部を新設
- ②全校的に推進するよう、定期的にSGH推進委員会を開催
- ③グローバル探究の進捗管理のための授業検討チーム会を毎週開催

課題と今後の取組（C、A）

中間期評価

1 グローバル探究の充実

グローバル探究Ⅰ

- ①人前で臆することなく積極的に発表できるようになった生徒も見られるが、自分に関わる問題であるという意識を持っていない生徒も少なくない。
- ②皆勤率（2学期中間考査終了時）・・・61.9%

グローバル探究Ⅱ

- ①コミュニケーション能力並びに批判的思考力が高まってきた。
- ②主体的積極的に探究活動を行っている」と評価できる・・・11/67グループ
- ③皆勤率（2学期中間考査終了時）・・・52.7%

2 英語学習の充実

- ①調べ学習については、多くの生徒が日本語サイトを活用している。
- ②普通科でのグループ協議は日本語を使用している。
- ③「英語でディスカッションできる」生徒・・・普通科3名、英語科10名程度

3 授業のSGH化（教科・科目での探究型学習）

- ①方法先行の授業となっており、目標設定（目指す生徒像・教室像）が不明瞭
- ②事象に対するグローバル視点の欠如

4 評価の充実

- ①ループリックを活用して評定することに慣れていない。
- ②「特徴の記述」に対する各達成水準（尺度）の共通認識が不足している。

【課題】

- ①SGHが示唆する学習者像にどこまで迫ることができるか
SGHが目指す普遍的な学習者像との乖離が見られる。
- ②指導力・評価力の向上
指導経験の不足から、探究活動を進める上で必要となるリサーチスキルや記述のための論理構成・表現、批判的思考等についての指導が不十分である。また、評価の信頼性・妥当性を高めていくことが当面の課題である。

【課題改善に向けて】

- ①について
「幅広い知識と教養」が形成されるよう、授業改善（目標に準拠した授業の実践）を中心にカリキュラム・マネジメントを図っていく。
- ②について
指導力向上のために大学教員等を招聘して研修を実施するが、基本的には経験主義（OJT）に立脚した教師教育を進めていく。

今後の取組

1 グローバル探究の充実

グローバル探究Ⅰ

東京リサーチや「グローバル思考の醸成」活動を通してテーマを巨視的に考察する。そして、これまでの学習や参考文献等を活用しながら「食を活かした地域創生」案を作成する。

グローバル探究Ⅱ

探究成果である論文作成と論文発表に向けて、探究内容のスクラップアンドビルドを重ねていく。論文作成にあたっては、研究者にも指導協力をいただく予定である。

2 英語学習の充実

英語表現Ⅱ（普）、Global EducationⅠ（英）

探究テーマに関する研究者を招聘し、その講義・演習を通してテーマ理解と共に探究スキルの醸成を図る。また、グローバル探究Ⅱで進めている自己課題の解決方策としても援用する。

3 授業のSGH化（教科・科目での探究型学習）

3学期に日本史Bにて知識構成型ジグソー法を用いた協調学習を実施する。

4 評価の充実

- ・「グローバル・リーダーの資質・力量に関する意識調査」（2月初旬）
- ・「グローバル・リーダーの資質・力量に関する評価」（2月初旬）